

平成二十二年度動物管理業務研修会

「飼い主が特定されないねこを減らすためにには」

私の家には現在、成猫ばかり七十五匹が私と夫、人間二人とネコ七十五匹で同居しております。正直、猫はさぞかし窮屈な思いをしているとおもいます。

何故、彼等はここに居るのか？

外飼いされ、エサはもらえても、不妊手術をしてもらえず、ご近所から文句を云われ、親子で捨てられたもの達。里親さんがみつからず大きくなってしまったもの。独居老人が施設に入居することになったものの保健所の処分にだせず、巡り巡って私の処にたどりついたもの。

結局、私のような、物好きでお人好しな人間のところにたどりつけなかった猫が、飼い主の特定されない、いわゆるホームレス猫、野良猫と呼ばれる存在となるわけです。

エサにはなんとかありつけても、雨風のげる処のない猫が、一年生存できる

のは、六匹中、せいぜい一匹。運好く、住宅の軒先や車庫、物置などで雨風をしのげる場所をテリトリーにできた成年の寿命はせいぜい五年。だいたい、生まれた時から、外住しの猫は、エイズや白血病を、テリトリー争いで感染し、風邪でもひけば、栄養状態が良くないので、一発で死にます。

河川敷や松林、港やテトラポットの処に生息している猫は、ほっといても減つてゆきます。新たに、そこに捨てる人がいなければ、減つてゆくのです。捨てられる人というのは、その子を不憫ふびんと思えば、手術代を払わなければならないのか？と、いう人。トイレの掃除をする気のない人。トイレ・糞尿の始末ができない人の言い分は「猫は、もともと外で生きてる動物だ。犬と違って、つないで飼うつもりはない。」の一点張りです。ここで申し上げたいのは、新たに捨てる人がいなければ、ということ。こ

のつながりでは、猫の預かり、里親探しセンターを公設民営で、設ければいいのかということですが、はつきり申し上げてセンターの開設には、反対です。安易に預ける。言い方を変えれば、捨てる人を増やすだけです。このような方たちは、私達のような、お人好しに、猫を預けて、自分はいいことをしたという、自己満足で終わってしまい、自分が捨てた、という無責任さを忘れてしまふのです。

さて、次にお話したいのは、いわゆる、ここ最近、大規模に取りざたされている、公園で飼われている地域猫です。公園に猫が生息していることを、快くおもわれない方達は、「ここで、猫を飼っていいのか？」といった議論になります。そうなる、動物愛護・倫理的側面よりお話しして、根気よく説得してゆくしかありません。が、そのような時、私達のようなボランティアの他に、公園の管理行政側にも、立合っていたただかなくては、なりません。

「何故、ここに猫がいるのか？」

「猫や犬が捨てられるのを、どうして防ぐ・阻止することが、できなかつたのか？」
飼い主の特定されない猫を減らすには、生まれてくる猫の数をコントロールするしかないのです。猫は、人間程、長生きしません。
適切な数とは、室内飼いできて、且つ終生飼育できる数です。

但し、それでは屋外で生息する猫は一匹もいらぬのか？と、云われたら、公衆衛生上の面から申し上げれば、外猫は絶対必要です。人工の殺鼠剤などを、屋外に散布する人の気がしれません。我家では、ねずみもゴキブリも観たことがありません。現在、各市町で、河川の護岸のとき、緑道や遊歩道を造っているところが多いとおもいます。耕作地・護岸の野ネズミ・ドブネズミにこそ、猫の出番です。繁華街・飲食店街にこそ、地域猫です。

十五年前、私の娘がビーバーとまちがえた程、大きかった、川を泳ぐドブネズミを、今は目にすることは、ありません。

何度も言います。猫は人間社会に、必要不可欠な益獣なのです。ペットであり愛玩動物なのです。

本日ここにお集まりの方々は、行政サイドの方々ですが、飼い主の特定されない猫を減らしてゆくには、外猫にエサをやる人、猫の嫌いな人。この両者の歩みよりを探るファシリテーターのような人間が必要ですか。このような役割を、誰が担うか？この仲介的役割を誰がするか？当事者同士は、直接言い争いたくなく、町内会長もそこまでは勘弁！！

やはりこれからは、市民協働といった進行性・方向性を、本日お集まりの行政の皆様に、お考え頂きたいと思います。

また、これからの動物ボランティアの育成・運営強化といった観点から、認定NPO取得の為の県からの推薦状も発行して頂けると、有難いと思います。

現、鳩山政権は、市民協働を推し進めると、いっていただけますが、法的整備は、まだ先の話。

そこで、静岡県には、あらゆる方面で

の市民協働といった全国での先駆けにな
って頂きたいと思えます

本日はご静聴ありがとうございました。
た。

平成二十二年 六月十一日